

説教

新年聖日礼拝

北浜チャーチ

黒田禎一郎

2018年1月7日（日）

主 題：「どんな決断をしますか」

—神の御手の内に—

テキスト：ヘブル人への手紙11章23－28節

はじめに

- ・ **新年、2018年が始まりました。本年も主にあって、宜しく願います。**
- ・ 先日、私は次のような話を聞いて励まされました。
ある女の人が夢を見ました。彼女は店の前に立っており、その店のオーナーは神様でした。彼女は最高のものをいただこうと思い、「**心に平和と愛と幸せと知恵、それと恐れからの解放をください!**」と言いました。
- ・ すると神様は、笑顔でこう言いました。
「**あなたは少し勘違いをしておられますね。この店では実は売りません。種を売っているのです。**」
- ・ 神様は私たちに、たくさんの**幸せの種（みことばの種）**を与えてくださいます。2018年、私たちもこの種を受け取り、私たちの考えや言葉を変えていくなれば、様々な場面でいろいろな実を結ぶことができます。
- ・ ここで注意したいことは、種を受け取るだけでは充分ではないことです。
種は発芽し、成長し、そして実を結ぶものです。そのためには、種と私の関係（つまり種をケアすること）が大切です。これこそ、新年に入り、私たちが願うところではありませんか。
- ・ さて、私たちはこの年、どのような事が前にあるか不明です。日々過ごしていく時、多くの場面で選択・決断を下さなければならないことがあります。事業に携わっている人なら、常に決断を下さなければならない場面に遭遇するでしょう。しかし、そういう責任者でなくても、決断を下さなければならないことは多々あると思います。
- ・ たとえば、昨年暮れにも問題になった日本のお国自慢である“**made in Japn**”の大手製造業会社で、職場ぐるみで不正をしていたことが発覚しました。その時、不正を知っていた当人たちは、きっと心に葛藤があったはずです。
なぜなら良心に従って行動しなければという思いと、もしそれに対してノーと言えば、左還ないしは解雇されることもあるからです。
- ・ 私たちは選択や決断に際して、不安や恐れを覚えることがあります。不安は時によっては、正しい決断を鈍らせてしまうことがあります。あるいは子育てする親は、学校で催される異教徒的行事に参加させるべきかどうか悩むこともあるでしょう。子どもの進路についても、具体的な問題で、どのように進むべきか悩むこともあるでしょう。
- ・ また夫婦の間柄においても、決断を下さなければならないこともあるでしょう。そのよ

うに、私たちは人生において、選択・決断を下さなければならないことがあります。いかがでしょうか。皆さんは、どんな決断をされますか。

- 多くの人は、生まれながらの自分の考えで決断を下し、事柄を選択しようとします。そして惨めな結果を刈り取ることがあります。というのは、生まれながらの人間の性質は、いつも自己本位、自己保身的でありますから、正しい決断を下すことができません。自分にとって、損をしないように決断を下すものです。それは決して正しい決断であるとは言えません。全体を正しく見ないで判断するからです。生まれながらの人間の弱さは、そこにあります。
- では、正しい判断というのは何によってなされるのでしょうか。言うまでもなく、正しい判断ができるのは神だけです。ですから、神のご判断を仰がなければなりません。不完全で利己的な人間による決断ではありません。人間の側から、神のご判断を仰ぐこと、それは「信仰による」ことなのです。ですから、信仰によってだけ、正しい判断を下すことができるわけです。
- 今日のテキストのモーセは、「信仰によって」、正しい判断を下した人でした。 私たちは新年を始めるにあたり、信仰の先人から、その大切な選択・決断の方法を学びたいと思います。

大切なポイント

1. イスラエルの偉大な指導者モーセ

1) モーセの生涯

① 誕生

- モーセの生涯を見るならば、彼が信仰によって決断を下した際、そこに恐れがあったことが分かります。モーセが生まれたころ、エジプトではイスラエル人が余りに多くなり、その勢力を恐れた王は、イスラエル人に男子が生まれたら、殺さなければならないと命令を出しました。
- これは助産婦への命令でしたが、王の命令を恐れず男の子を生かしておいた人々がいました。そこでエジプトの王は、助産婦にだけでなく、すべての人にイスラエル人の男の子を見つけたら、ナイル川に投げ込み、溺死させよと言う命令を出しました。
- モーセはそのような時に生まれた男の子でしたから、両親はモーセを生かしておくことに恐れを抱いたでしょう。しかし、信仰によって自分の家に隠していました。モーセは不思議な方法で生き延びました。

11:23 信仰によって、モーセは生まれてから、両親によって三か月の間隠されていました。彼らはその子の美しいのを見たからです。彼らは王の命令をも恐れませんでした。

- モーセは3ヶ月ほど両親によって隠されましたが、きっと鳴き声が大きくなり、もう隠しきれなくなったのでしょう。そこで、パピルス制のかごの中に子どもを入れて、ナイル川近くの葦の茂みの中に浮かべておきました。姉のミリ

アムが離れたところで、それを見守っていました。すると丁度そこへエジプトの王女が水浴をしようとして、川に下りて来ました。

- 王女は葦の茂みの中にかごがあるのを見つけ、開けてみると、そこには男の子の赤ちゃんがいて泣き出しました。王女はあわれに思い、自分が育てようと思いました。そこへ姉のミリアムが飛んで来て、うばを知っていると言い、その子の母親を連れてきました。王女はその子を自分の家へ連れて行き育てるように言いました。
- モーセはなんと自分の母親によって育てられ、成長してから王女の所へ連れてこられました。王の命令に違反したら、どうなるかという恐れがないわけではなかったでしょう。しかし、モーセの両親は信仰によって、神の御心を選ぶ決断を下しました。

②成人したモーセ

- モーセは実の両親から、自分がイスラエル人であることをしっかりと教えられていたと思います。ある日、モーセはイスラエル人が強制労働させられている現場へ行きました。自分の同胞たちがどんなにひどい目に遭わされているかを見ました。出エジプト
2:11 こうして日がたち、モーセがおとなになったとき、彼は同胞のところへ出て行き、その苦役を見た。そのとき、自分の同胞であるひとりのヘブル人を、あるエジプト人が打っているのを見た。
- 2:12 あたりを見回し、ほかにだれもいないのを見届けると、彼はそのエジプト人を打ち殺し、これを砂の中に隠した。
- あまりにひどいやり方でエジプト人がイスラエル人をなぐっているのを見、怒りに燃えたモーセはそのエジプト人をなぐり殺してしまいました。それを誰も見ていないと思っていました。
- 翌日またそこへ行ってみると、今度はイスラエル人同士が争っていました。その悪い方の男を責めると、その男に言い返されました。
- 2:13 次の日、また外に出てみると、なんと、ふたりのヘブル人が争っているではないか。そこで彼は悪いほうに「なぜ自分の仲間を打つのか。」と言った。
- 2:14 するとその男は、「だれがあなたを私たちのつかさやさばきつかさにしたのか。あなたはエジプト人を殺したように、私も殺そうと言うのか。」と言った。そこでモーセは恐れて、きっとあのことが知れたのだと思った。
- 昨日エジプト人を殺したことまで言及されたので、モーセは恐れを抱かざるを得ませんでした。だれも知らないと思っていたことが、もう分かってしまったからです。
- 2:15 パロはこのことを聞いて、モーセを殺そうと捜し求めた。しかし、モーセはパロのところからのがれ、ミデヤンの地に住んだ。彼は井戸のかたわらにすわっていた。
- エジプトの王はモーセがエジプト人を殺したことを知り、今度は王がモーセを殺そうとしました。こうしてモーセは、王の手の届かないミデアンの地へ逃れることになりました。著者はモーセについて、次のように言いました。
- 11:24 信仰によって、モーセは成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、
- 11:25 はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。

2) 信仰による選択・決断

11:27 信仰によって、彼は、王の怒りを恐れなくて、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見るようにして、忍び通したからです。

- ・モーセの生い立ちは、神の摂理の御手の下にありました。彼はイスラエル人の男の子として生まれましたから、殺される立場にありました。しかしエジプトの王女に拾われ、王宮の中で育てられました。使徒の働きは、次のように言っています。

7:22 モーセはエジプト人のあらゆる学問を教え込まれ、ことばにもわざにも力がありました。

- ・彼は富も権力も思いのままという立場で、王子の一人として生きることもできたはずでした。しかし彼はエジプトでの生活より、神の民と共にエジプト人から虐待される方を選びました。それは信仰による決断でした。そこには当然、恐れがありました。王の怒りがあり、エジプト人を敵に回すこととでなったからです。

- ・では、なぜモーセは苦しい道を選択したのでしょうか？

⇒ 彼がそれを選び、決断した理由は次にありました。

11:26 彼は、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思いました。彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです。

- ・著者はここで「キリストのゆえに受けるそしり」と言いましたが、キリストの民、つまり神の民であるイスラエルの人々と身一つにすることによって受ける苦しみのことです。ここにキリストの名前が出てくるということは、旧約における神も新約における神の民と同一線上にあるということを教えています。
- ・モーセはキリストより約1300年も前の人でした。それなのに著者は、キリストはすでに旧約聖書時代の隠れた導き手であったとしています。キリストも、ご自身について次のように言われました。ヨハネ福音書

8:56 あなたがたの父アブラハムは、わたしの目を見ることを思って大いに喜びました。彼はそれを見て、喜んだのです。」

8:57 そこで、ユダヤ人たちはイエスに向かって言った。「あなたはまだ五十歳になっていないのにアブラハムを見たのですか。」

8:58 イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、わたしはいるのです。」

- ・また12弟子の一人ヨハネもこう言いました。ヨハネ福音書

1:1 初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。

1:2 この方は、初めに神とともにおられた。

1:3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。

- ・しかしヘブル人への手紙には次のようにあります。

11:27 信仰によって、彼は、王の怒りを恐れなくて、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見るようにして、忍び通したからです。

モーセは見えない方を見るようにして、忍び通しました。彼の信仰は大いなるものでした。

- ・しかし、少し脱線しますが、不思議に思うかも知れません。

それは、出エジプト2章を開くと次のように書かれているからです。

2:14 するとその男は、「だれがあなたを私たちのつかさやさばきつかさにしたのか。あなたはエジプト人を殺したように、私も殺そうと言うのか。」と言った。そこでモーセは恐れて、きっとあのことが知れたのだと思った。

- ・皆さん。一方では恐れて、もう一方では恐れなくて、とあり矛盾しているように思えます。しかし矛盾ではありません。確かにエジプトの王に命が狙われていることを知って、恐れしました。しかし、モーセがエジプトからミデアンの地へ行ったのは、ただ恐れから逃げたのではありませんでした。信仰によって、エジプトの地を後にしたのです。それは「目に見えない方を見るようにして、忍び通した」ことによって明らかです。
- ・皆さん。信仰によって、進路を選択する場合、恐れがまったくなくことはありません。しかし信仰によって、神を仰ぎ決断を下せば、もう恐ろしいことはありません。最初は自分の弱さを知り、しり込みしたモーセも神から強められ、偉大な指導者として約200万人ものイスラエルの民を導いたことも、そのことを教えてくれています。
- ・つまりモーセが選択・決断した道は困難な道でした。それは信仰によって、進む道でした。そこには聖書の契約の神がおられました。神はイスラエルの民を守り先導すると約束されたお方です。（アブラハム契約）。
- ・モーセの選択・決断はさらに幸いな奥義へと導きました。

3) 信仰による選択は従順を生む

11:28 信仰によって、初子を滅ぼす者が彼らに触れることのないように、彼は過越と血の注ぎとを行ないました。

- ・神はイスラエルの民をエジプトから救出するため、指導者モーセをエジプトの王の所に遣わされました。イスラエルの民を行かせるよう言わせました。王の心はかたくなで、なかなかそれを許しませんでした。そのため9つの災いが下りました。そして最後の災いとして、エジプトの中の初子を殺すと仰せられました。
- ・ただし、イスラエルの民は傷のない子羊をほふり、その血を自分の家の入口の二本の柱とかもいに塗っておくようにと指示されました。いよいよみ使いが下り、エジプト中の初子を殺すため、一軒、一軒回って行く時、入口の2本の柱とかもいに子羊の血が塗られている家は、み使いは「過ぎ越し」ました。その中にいる人は助かりました。こうして彼らは出エジプトすることができました。これを記念するのが、ユダヤ人が今も守っている「過ぎ越しの祭り」であり、私たちが守っている新約時代の聖餐式の奥義です。
- ・このように、モーセは選択・決断をしなければならなかった時、信仰によって、正しい

選択をすることができました。人間的に見れば、そこには大きな賭けがあるように見えます。ほかの人が進んで行く道を選ぶということは、そう危険がなく、安全であるように見えるものです。

- ちょうど「赤信号、みんなで渡ればこわくない」式の考え方です。確かに、だれも行こうとしない道に進もうとするならば、そこに大きな勇気と決断が必要です。しかし、信仰があれば、それはできます。
- 信仰は私たちに勇気と決断を与えてくれます。しかし、信仰それ自身に力があるのではありません。信じる対象である神が、全能の神であるところに力があるのです。神は天地万物を造られ、私たちを愛と真実をもって導いてくださるお方です。つまり、「目に見えないお方（神）が、すぐそばにいてくださる」ことを見ることです。それが、信仰によって生きるということです。
- それは具体的にはどういうことでしょうか？

2. モーセの信仰生涯に学ぶ

1) モーセも人の子

- 偉大なモーセは、殺人という大罪を犯し大失敗しました。彼は選択・決断をする際、確かに恐れがありました。しかし恐れを克服した人でした。ですから、大きく用いられた神の器となりました。なぜでしょうか・・・？
神との契約にあるからです。しかも、片務契約であるからです。創世記
12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。
12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」
- 神に愛され選ばれた器、神の永遠の契約に結ばれた人は幸いです。
私達も神に選ばれた者です。神との契約に与った者です。それは、ただ神の恵みであります。

2) モーセの神は私の神

- 私達も、神の御手の内にあります。目に見えない方を見るようにして歩むことができる幸いに与った者です。それは、「信仰によって」生きる道です。
- 私達の神はインマヌエルと呼ばれ（神はわたしたち共にいる）、常に共にいてくださるお方です。目に目えないお方を見るように生きる、
それは ⇒ 「信仰によって」歩む道です。
- では、どうすれば目に見えないお方に見えるように歩めるのでしょうか。
神の絶対的な約束は変わりません。その神の約束をしっかりと覚えること、それは日々
のディボーションに鍵があります。
(リズム化⇒それが「ライフスタイルになるまで、習慣化するよう習得すること)
- 今の時代、神はみことばを通して、聖霊を通してお語りくださいます。ですから日々心

静めて、神の声を聞くことは重要です。2018年、私たちはディボーションを生活の軸足としようではありませんか。なぜなら、今年も多くの選択・決断をしなければならぬ「時」がやって来るからです。

- ・2018年、私たちは遭遇する選択と決断の「時」を、「**信仰によって**」進めて行こうではありませんか。

ま と め

主 題：「どんな決断をしますか」

—神の御手の内に—

- ・2018年の新年礼拝、私たちは偉大な信仰の先輩であるイスラエルの指導者モーセの生涯から学びました。モーセは何度も選択・決断の「時」を迎えました。彼がなぜ神に用いられ、神の人となったのか、その秘訣は「信仰によって」歩んだ道にあったことを学びました。
- ・今日、大切なことを覚えました。選択・決断には恐れが生じるものである。しかし「信仰によって」神を仰ぎ選択・決断するならば、恐れが恐れではなくなることです。神が先導してくださることを知っているからです。
- ・大切なこと：
 1. モーセの神は私の神である
 2. 「信仰によって」選択・決断をすること

* God bless you!